

社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

～島根県・福島県での試行錯誤の事例から～

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム
ディレクター 長谷川 勇紀

2024年1月16日

長谷川 勇紀（はせがわ ゆうき）

- ◆ 出身
 - ▶ 新潟県 新潟市
- ◆ 所属
 - ▶ (一財)地域・教育魅力化プラットフォーム
 - ▶ 島根県教育委員会 教育魅力化推進員
 - ▶ 立教大学大学院 経営学専攻 リーダーシップ開発コース
- ◆ 経歴



【文科省事業の協力】
 ・R1/R2「地域との協働による
 高等学校教育改革推進事業」
 ・R3「COREハイスクール・
 ネットワーク構築」
 ・R4/R5「新時代に対応した高等
 学校改革推進事業（普通科改革
 支援事業）」企画評価委員会委員

社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

【1部】講演会

- ・「より良い組織」とは何か？
- ・「より良い組織」をつくるためにおさえるべき観点は何か？



【2部】グループ協議

「より良い組織づくりについて考える」

3

社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

- ①「自分の現場だったら何が活用できそうか？」
という問いを持って場に臨む。
- ②ここでの話は組織の意見ではなく、
個人の意見でどんどん言葉に出す。

4

社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

1. 「より良い組織」について考える
2. 「より良い組織づくり」の事例共有①
～福島県立ふたば未来学園高等学校～
3. 「より良い組織づくり」の事例共有②
～島根県教育委員会～
4. まとめ

社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

1. 「より良い組織」について考える
2. 「より良い組織づくり」の事例共有①
～福島県立ふたば未来学園高等学校～
3. 「より良い組織づくり」の事例共有②
～島根県教育委員会～
4. まとめ

【1つ目の問い】

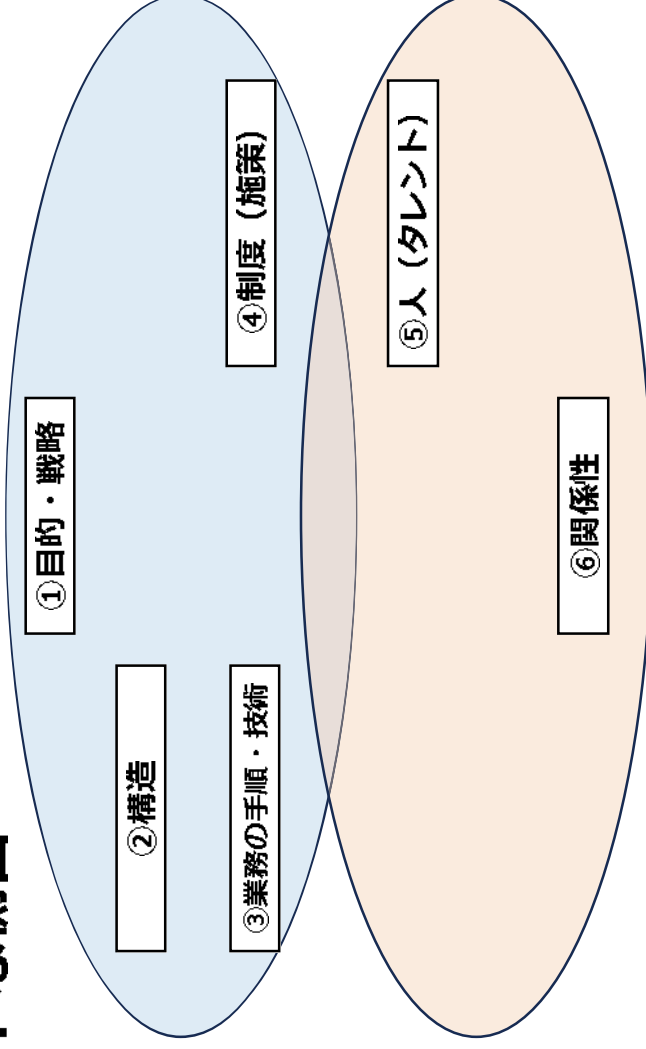
「より良い組織（学校）」とは、
どのような組織（学校）でしょうか？

7

組織の6つのマネジメント課題

- 組織は2つの側面、6つのマネジメント課題を有している。

ハードな側面



ソフトな側面

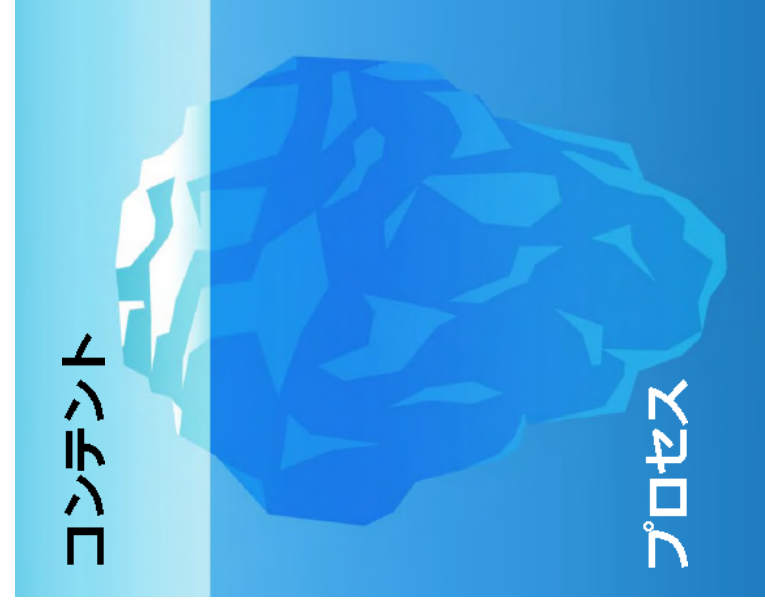
組織の6つのマネジメント課題

- ① **目的・戦略**
 - ➡ その組織は何のためにあるのか、組織が将来どのようなようになっていくのかが明確か？浸透しているか？
- ② **構造**
 - ➡ 業務をどのように分け、どのように役割を当てていくか？
- ③ **業務の手順・技術**
 - ➡ 業務の手順をどのように明確化し、共有するか？
 - ➡ 業務を効率化していくために、どのような技術を使うか？
- ④ **制度（施策）**
 - ➡ 人々のモチベーションを高め、それぞれのキャリアを発展させるために、どのような制度を構築し、実施するか？
- ⑤ **人（タレント）**
 - ➡ 個人の能力、スキル、リーダーシップ意識などを高めていけるような取組を推進しているか？
- ⑥ **関係性**
 - ➡ コミュニケーションの仕方、チームワーク、組織の文化や風土をより良くしていきけるような取組を推進しているか？

※出典：「入門 組織開発」（2015,中村） 9

組織のコンテンツとプロセス（冰山モデル）

- 組織を見立てるとき、見えやすい「コンテンツ」と、見えにくい「プロセス」がある（コンテンツはハードな側面、プロセスはソフトな側面）



コンテンツ（What?）

話題・課題・仕事などの内容的な側面

プロセス（How?）

お互いの中で起こっていること（関係的な側面）

- ・グループの中で
 - ➡進め方や手順、目標の共有化、意思決定、暗黙の決まりごと、リーダーシップ、雰囲気など
- ・対人間で
 - ➡コミュニケーションのあり様、お互いの信頼感など
- ・個人の中で
 - ➡参加の仕方、気持ちなど

※出典：「入門 組織開発」（2015,中村） 10

3人が力を合わせて、綱引きをする

$10 + 10 + 10 = 25 \dots$ なぜ？

■ プロセス・ロス

- ・ グループであるからこそ生じてしまうパワーダウン

1. 各人の参加意識がまちまち
 2. コミュニケーションがうまくいかない
 3. 信頼関係ができていない
 4. 目標の握りが甘い
 - ・・・といった場合にパワーダウン
- ### ■ プロセス・ゲイン
- ・ グループであるからこそ生まれるシナジー

➡実際の生産性 = 潜在的生産性 - 欠損プロセスに起因するロス

※出典：「入門 組織開発」(2015,中村) 11

ハードな側面 × ソフトな側面
コンテンツ × プロセス

より良い組織とは？
自らの考えを深めていくこと

13

今日の流れ

社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

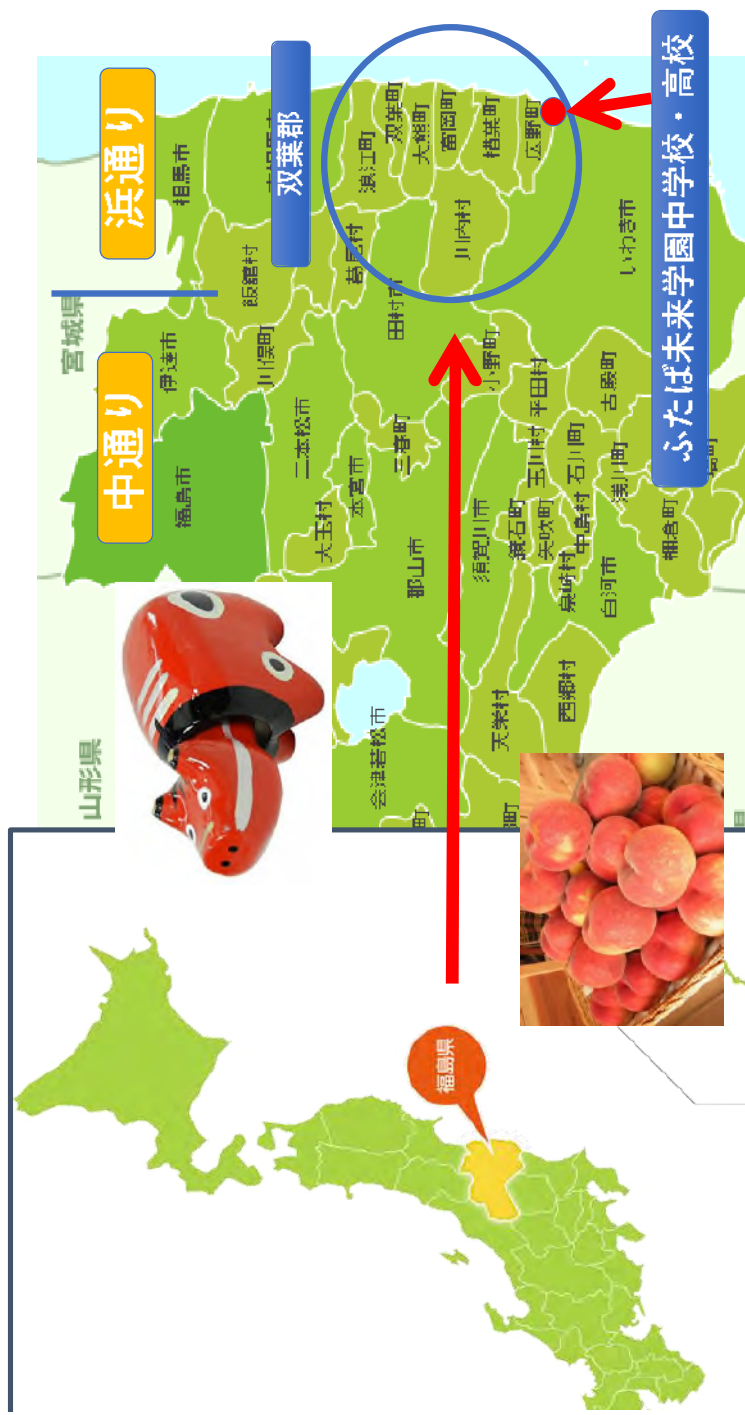
1. 「より良い組織」について考える
2. 「より良い組織づくり」の事例共有①
～福島県立ふたば未来学園高等学校～
3. 「より良い組織づくり」の事例共有②
～島根県教育委員会～
4. まとめ

14



未来創造型教育 ～ 21世紀型資質・能力の育成 ～

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校



双葉郡：福島県浜通りの郡。

人口57,365人、面積865.71km²(2023年4月)

— 広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村の8町村

2011年3月11日 午後2時46分 東日本大震災発生

17

福島県双葉郡では、東日本大震災によって、**津波被害**と共に、**原発事故**にも襲われる。

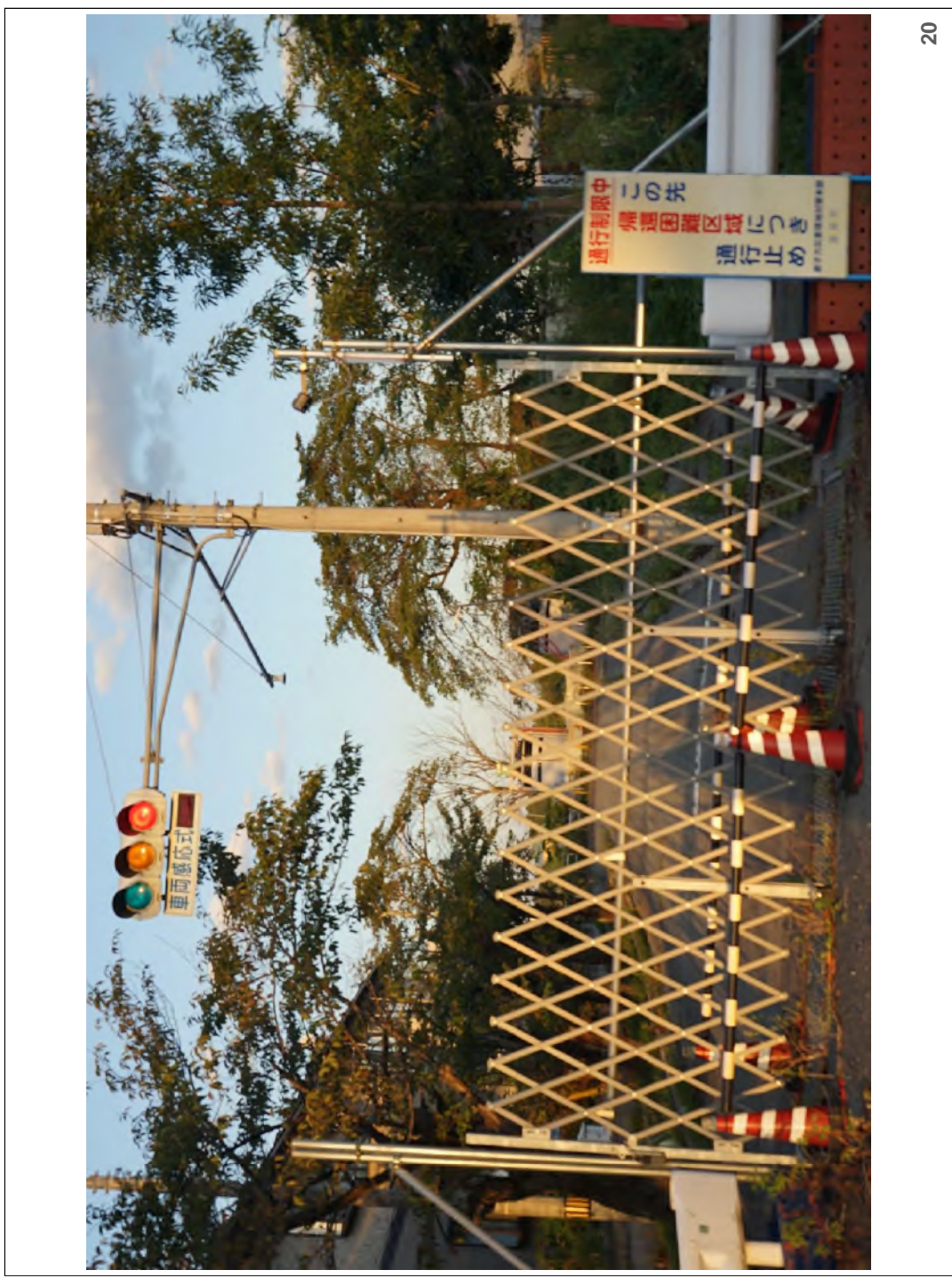


出典：東京電力ホールディングス

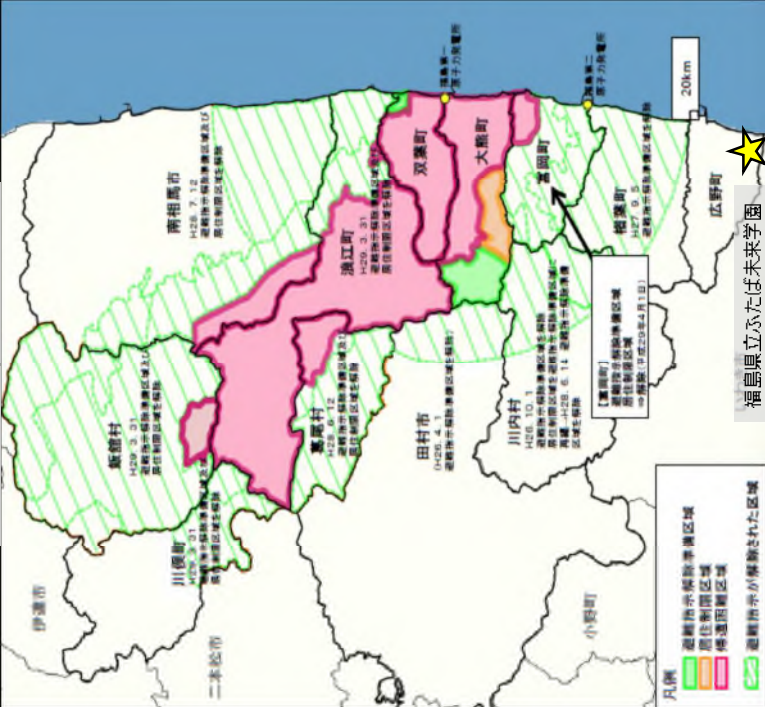
2011年3月11日 (金)	東日本大震災発生
14時46分	福島第一 原子力緊急事態宣言発令
19時03分	福島第一 県が半径2km圏内に避難指示
20時50分	福島第一 国が半径3km圏内に避難指示
21時23分	福島第一 国が半径10km圏内に屋内退避指示
3月12日 (土)	
05時44分	福島第一 国が半径10km圏内に避難指示
07時45分	福島第二 原子力緊急事態宣言発令
	国が半径3km圏内に避難指示
	国が半径10km圏内に屋内退避指示
17時39分	福島第二 国が半径10km圏内に避難指示
18時25分	福島第一 国が半径20km圏内に避難指示
3月15日 (火)	
11時00分	福島第一 国が20~30km圏内に屋内退避指示

人体に有害な**放射性物質**が地域に降り注いだ。
最大16万5千人が県内外に**避難**。
双葉郡では、現在も**約2万人**ほどの人々が**避難**している。

18



■ 2019年4月当時の各町村の状況



町村名	住民登録人口 [2011年3月]	避難者数 [2019年5月] (県外64人)	帰還者数 [2019年6月]
葛尾村	1,567人	892人 (県外64人)	926人
浪江町	21,484人	14,204人 (県外6,194人)	879人
双葉町	7,147人	6,879人 (県外2,804人)	帰還困難区域
大熊町	11,505人	7,844人 (県外2,488人)	25人 ※2019年4月
川内村	9,038人	517人 (県外195人) ※2018年9月	2,165人
富岡町	15,960人	11,870人 (県外2,936人)	1,049人
楢葉町	8,011人	7,215人 (県外776人) ※2018年4月	9,741人
広野町	5,480人	774人 (県外159人) ※2018年5月	4,197人

※各町村が公開しているデータをもとに独自作成

双葉郡にあった5つの高校はサテライト校へ。

2015年4月から、新規入学者の募集を停止。
(2017年4月から休校)

- 双葉高校 (いわき市)
 - 浪江高校 (本宮市)
 - 浪江高校津島校 (二本松市)
 - 双葉翔陽高校 (いわき市)
 - 富岡高校 (いわき市、福島市、猪苗代町、静岡県)
- ※ カッコ内は移転先 (サテライト高校)



双葉地区教育長会が
「福島県双葉郡教育復興に関する協議会」を設置
(2012年12月)

中高一貫校の設置を柱とする
「双葉郡教育復興ビジョン」を策定。

「いかなる状況下でも子どもたちの学びを保障する」
そして、「双葉郡・日本・世界の未来に貢献する人材を
育成することを目指す」

2015年4月

福島県立
ふたば未来学園高等学校

ふるさとで、学びたいと願う子どもたちのために
構想から2年の月日を経て、開校。

※2019年4月に中学校をスタートさせると共に、新校舎を設置。



■ 教育目標・目指す生徒像

震災と原発事故という、人類が経験したことのない災害にみまわれた子どもたちは、**解決困難な様々な課題に直面**している。

課題先進地域となった**双葉郡**



これまでの価値観や社会の在り方を根本から見つめ直し、**新しい生き方、新しい社会の創造を目指さなければならぬ**。



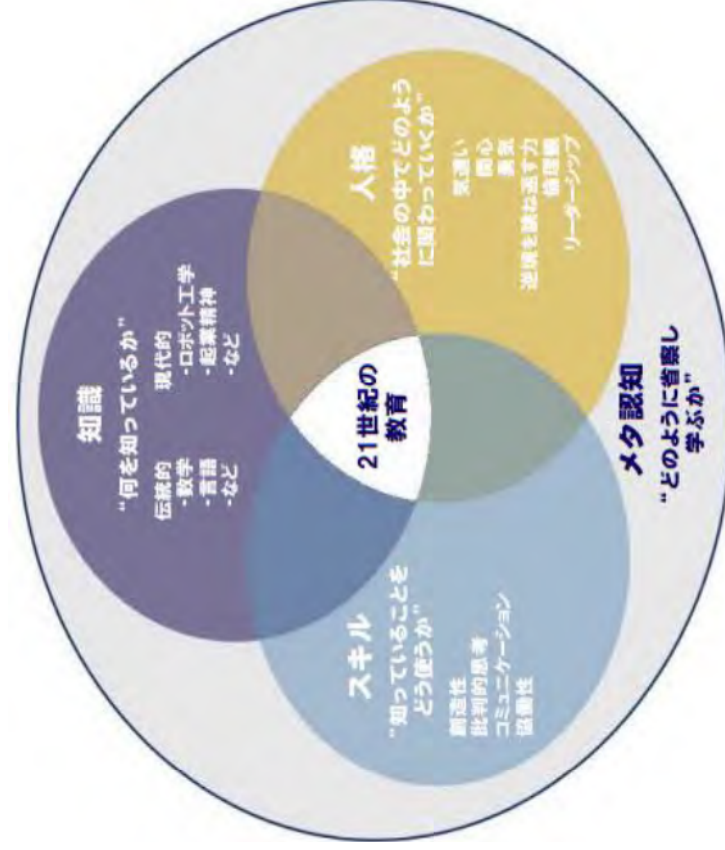
【教育目標】

自らを変革し、**地域を変革し、社会を変革**していく
「**変革者**」を育成する

25

■ 「変革者」が持ち合わせるの資質・能力とは何か？

全教職員で、育てていく力を設定



26

■ 人材育成要件・ルーブリックの策定

学力概念	No	質量・能力・態度(まどゆめと)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
知識 Knowledge "What we know"	A	社会的課題に関する知識・理解 一般常識や基礎学力をつつながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に付ける。	地域や社会の現状立ち上りについて基礎的な知識を得る。	地域の課題に向けた課題の基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など社会課題が社会実態に向けてどのように社会的知識を得る。	社会的課題について、目的・手段・結果を整理し、人に説明できるレベルまで理解する。	社会的課題について、目的・手段・結果を整理し、人に説明できるレベルまで理解する。	
	B	英語活用能力 英語を使ったコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとろうとする際の「態度・態度」を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。		メディアやニュースなどから、自分や他者の考えや意見を聞き取り、自分の考えや意見を相手に伝えることができる。	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを支えながら英語で説明できる。(自己紹介レベル)	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを支えながら英語で説明できる。(自己紹介レベル)	
	C	思考・創造力 物事と創造的に考え、批判的思考で振り返り下げ、入アールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理でき、自分の考えや意見を、集団の前で話すことができる。		メディアを活用して情報を調べ、情報を分析・評価・活用しながら課題を整理し、見聞することができる。	現実と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きな視点で、批判的に考えることができる。	未知のことについても自ら調べ、自分の考えや意見を人に伝えることができる。	未知のことについても自ら調べ、自分の考えや意見を人に伝えることができる。
	D	意図・傾聴力 どのような場でも聴き、自分の考えや意見を、他者の意見を聞き出す。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。		突然指名されたときでも、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	ICTを活用したり、データや事例を補いながら、自分や他者の考えや意見を聞き取り、自分の考えや意見を相手に伝えることができる。	多様な人々へ、態度とストーリーで、意見を伝えることができる。	多様な人々へ、態度とストーリーで、意見を伝えることができる。
技能 Skill "How we do it"	E	問題解決力 自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	集団や他者の中で、決められたことや指示されたことに取り組むことができる。		集団や他者の中で、他者の良さを共感し、新たなものを取り入れながら、共通の目標に向かって活動を進めることができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出し、お互いの関係性を保ちながら、課題を解決することができる。	文化や価値観を踏まえて、社会課題をチームで解決し、互いに高め合う意志としての態度を醸成する。	文化や価値観を踏まえて、社会課題をチームで解決し、互いに高め合う意志としての態度を醸成する。
	F	マナー・コミュニケーション能力 自分や他者との取り分けを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。		指示を持たず、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、課題の解決に向けて取り組むことができる。	作業の振り分けや、全体スケジュールを意識し、チームメンバーで作業を適切に役割分担することができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
	G	前向き・責任感・チャレンジ 自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。		自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして積極的に取り組む。	集団や他者の中で、自分の役割を思いやることで、互いに助け合いながら、課題を解決することができる。	困難にぶつかっても自分の責任をもち、チームメンバーで作業を進め、課題を解決することができる。	困難にぶつかっても自分の責任をもち、チームメンバーで作業を進め、課題を解決することができる。
	H	異文化・異言語 自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	異文化や異言語の存在を受け入れ、思いやる態度で接することができる。		集団や他者の中で、相手の立場や考えを理解し、共感することができる。	集団や他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを願うことができる。	考えの違う他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを願うことができる。	考えの違う他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを願うことができる。
自らを振り返り Reflection "How we reflect and learn"	I	行動的・反省性 自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	所属する集団の一員として、自分の役割を自覚することができる。		自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	
	J	自己反省力 自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。		自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	自分自身で課題を解決し、他者の課題を解決する。	

A～Jの11個の資質

レベル1～5

■ 教育課程の概要

- 教育課程等
 - 3つの系列からなる総合学科の高等学校。

アカデミック系列 進学に対応した科目選択	トップアリスト系列 部活動に運動した「スポーツⅡ」, 「スポーツⅢ」を選択	スパシヤリスト系列 農業、商業、工業、福祉に関する科目選択
-------------------------	---	----------------------------------
 - 多様な生徒に対応する、英語、数学、国語での徹底的な学習熟度別授業と、課外学習を実施。
 - 課題解決力等の汎用的能力を高めていくために、3ヶ年のうち合計8単位の「総合的な学習の時間」等を用いて、カリキュラム全体の軸となる「探究学習」として位置づけ。
 - 大学の推薦入試や特別選抜にも対応。(総単位数 32単位/年、全96単位)
- 平成27年度に双葉郡8町村の中学校との連携型中高一貫校として開校。
平成31年度には併設中学の開校。高等学校定員は一学年160名、中学校定員は同60名。

○ 教育課程表 (H30入学生)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
1年次	国語総合	英語	数学	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	音楽	美術	美術	書画	保健	体育	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	
2年次	体育	保健	物理基礎	化学基礎	生物基礎	世界史A	日本史A	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	
3年次	体育	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究	未来創造探究

「変革者」を育成する。

設定した「人材育成要件・ルーブリック」
教育課程を通じて育てていく。

福島の地にある困難な課題を教材にした
「探究的な学習」をカリキュラムの軸に置く。

■ 高校3年間を通じた総合的な探究の時間

地域をフィールドに、地域の課題を教材に、その解決の過程を通して
汎用的なスキルを身につけ、自分自身の生き方あり方に繋げていく
地域課題解決型プロジェクト学習を推進。

○ 3年間の探究学習の全体像

